

# 女子エペ 吉田が準優勝

## 全日本出場権獲得「ベスト4目指す」

### 男子エペ 3位に伊藤



日本学生フェンシング田ひなた(人間科学2・グ・カップ)4月20日、世田谷区・駒沢公園屋内球技場

9月に行われる全日本選手権大会の選考を兼ねた今大会。女子エペで吉田

「気持ちは安定し、冷

静にプレーできた」と大会を振り返った吉田。しかし、接戦が続く中、決勝は力でも「試合を乗り切りたい」と誓った。

はベスト8に終わった全日本に向け「今度こそ一つ勝ってベスト4に入りたい」と誓った。

伊藤は、あと一歩及ばず準決勝で惜敗したが、強みでもある「試合を乗り切りたい」と誓った。

# 連覇逃すも3位

関東大学バスケットボール選手権大会＝4月15日～5月7日、渋谷区・代々木第二体育館ほか



モハメドの豪快なダンク (準々決勝) 撮影＝鶴本あい (法3)

連覇を目指し、新チームで臨んだ今大会は3位に終わった。

法大、青学大を危なげなく退け、準々決勝で東海大と対戦。赤嶺有奎主将(文4・豊見城高)を中心に我慢強く戦い、勝利を引き寄せた。

準決勝は、堅い守備の日本大に、オフエンスリバウンドから得点を狙う得意の形が封じられ、58-61で惜敗。気持ちを切り替えて臨んだ日大との3位決定戦は、序盤から得点を重ね、69-64で勝利を収めた。

個人では、リバウンド部門でクマシヨセフ・介川は「徐々にプレーター

イムをもらえようになつた。もっと自分らしさを発揮したい」と話した。

佐々木優一監督は「準決勝からうまく気持ちを切り替えて、3位決定戦に臨むことができた。悔しい結果に終わったが、自分たちのバスケットを、勝ちで終わることが



千葉⑩との連携でスパイクを止める甲斐優斗⑮＝明大戦

# 3位で終盤戦突入

春季関東大学バレーボールリーグ戦第1～7節(4月8日～5月7日、神奈川県・小田原アリーナほか)

第7節を終え、5勝2敗で12チーム中3位につけている。今シーズンは全日本大学選手権大会優勝を目指して掲げており、上々の出だしとなった。昨秋にブロック賞を受

賞した千葉貴世(経済2・東北高)は、今季も相手のスパイクを封じている。千葉は「自分たちのバレーを続けることが勝ちにつながっていく」と今後を見据える。

日本代表の登録メンバー入りした甲斐優斗(経済2・日南振徳高)らサーブを意識したいと話した。

# 準優勝

## 79kg級 高原

## 125kg級 永野

高野葵葉・文2)

レスリング・JOCジュニアオリンピックカップ(4月15～16日、神奈川県・横浜武道館)

高野は「今までと比べて攻める回数を増やすことができたが、決勝ではそのタイミングを相手に利用された。相手の体勢を崩したうえで、自分の

動きができるようにしたい」と課題を述べた。

同57kg級で3位となった向田旭登(経営2・花咲徳栄高)は「激戦区を勝ち進めたこと、うれしいが、トップの選手に勝ち切れなかった」として雪辱を誓った。



入賞した3人。左から高原、永野、向田

# 目標は大学日本代表

4月5日の東都大学野球春季リーグ戦(2部)。入学式にもかかわらず、八回に新人生がマウンドに立った。昨夏の甲子園を沸かせた本格派右腕・宮原明弥だ。

長崎県で生まれ育った宮原は、海星高に進学。甲子園で活躍した後、高校日本代表に選ばれ、U18ワールドカップではメキシコ戦でセーブをあげるなど



撮影＝高橋尚之(経営4)

野球部 HARUYA MIYAHARA 宮原 明弥 (経営1・海星高)

「世界を相手に躍動した。彼の魅力は、182センチ・90キロのガツガツとした体格から力強く放たれるストリートと、縦に曲がるスライダー。数々の舞台で相手を翻弄してきた。大学初登板となった5日の拓大戦では四球をきっかけに1点を失い、戦国東都の洗礼を受けた。しかしその後は立て直し、次打者を得意のストリートで空振り三振に仕留めた。コースにしっかり投げることができた」と春から取り組んでいるトレーニングや走り込みが結果に結びついたと話す。

18日の東農大戦では先発のマウンドへ。三回の無死満塁のピンチは無失点で切り抜けたが、五回に4失点で降板。5四死球と制球に苦しむも、4三振を奪い、大器の片りんを見せた。

目標は、大学日本代表入り。「文武両道で、再び日本のユニホームを着たい」と決意を語った。(山口)

# 貫井、高見が 東日本大会へ

関東学生アーチェリーリーグ戦(4月15～23日、江東区・夢の島公園アーチェリー場)

男子が12位、女子が11位。男女ともに人数不足で入れ替え戦に参加できず、2部降格となった。

しかし、個人で貫井俊汰(文3・所沢中央高)が健闘。92人が参加したリーグ戦で初日7位、2日目3位と好成績を残した。貫井は「当日は風が強かったが、練習と変わらずにプレーすることができた。風の読みが甘かったところが課題」と語

# 巻き返しに期待

東都大学野球春季リーグ戦(2部)第2～3週(4月17～5月1日、神奈川県・等々力球場ほか)

1勝5敗の勝ち点0と苦戦が続く。しかし、エースの西館昂汰(経済4・筑陽学園高)が3戦3完投で防御率1点台と抜群

『専Sation』No.26

生田・神田で配布中

専大スポーツ編集部が企画、制作する『専Sation』第26号がキャンパス内で配布中。巻頭はバスケットボール部(男子)特集。野球部、陸上競技部などを取り上げ、過去最大の44ページと読み応え十分の一冊となっている。

専大スポーツ

【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/

No. 440

専大スポーツ 編集部 公式 WEB

Twitter @sensuponow Instagram sensuponow